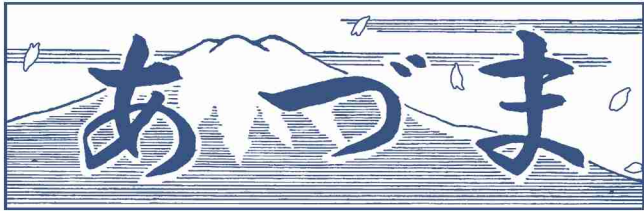


方面	方面隊63周年記念行事	(1面)
1師団	隊計1次指示	(3面)
12旅団	令和5年 始動	(4面)
1施設団	ジブチ能力構築支援	(5面)
関東補処	駐屯地成人行事	(5面)



令和5年2月28日 第1057号

総監統率方針「強靱な東部方面隊の創造」  
総監要望事項「克己」

陸上自衛隊東部方面隊広報誌  
発行所：方面総監部広報室  
住所：東京都練馬区大泉学園町  
専用線：8-37-2446

# 方面隊63周年 盛大に挙行

## 4年振りに開催



国旗に敬礼する観閲部隊



整列した観閲部隊

方面隊は2月11日・12日の両日、朝霞駐屯地等において方面隊創立63周年記念行事を挙行了。本行事は協力者等からの信頼の醸成及び隊員の使命の自覚と士気の高揚を図り、防衛基盤の充実強化に資することを目的としている。

11日は優秀隊員招待行事、方面音楽まつり、歴代総監会同を、12日は総監感謝状贈呈式、祝賀式典、祝賀会食をそれぞれ実施した。

優秀隊員招待行事においては当初都内外部施設において表彰式を実施し、各部隊等の隊務運営や方面隊の精進に多大な貢献をした優秀隊員16人に対し、総監は表彰状を授与し、その功績を称えた。その後、和光市民文化センターサンアセリアで行われた方面音楽まつりを鑑賞し、受賞者の隊員家族も演奏会を楽しんだ(下部参照)。

歴代総監会同では総監が歴代の元総監と懇談し、方面隊の現況を伝えるとともに、さまざまな意見を聴取して今後の方面隊の施策の資とした。総監感謝状贈呈式では功績の著しい個人及び団

体35人に対し、総監自ら感謝状を贈呈し、日ごろの感謝の意を表した。総監が観閲官となる祝賀式典(観閲式)では、駐屯地北グラウンドにおいて計13コ直轄部隊、総勢約560人の隊員が整列する中、巡閲、総監式

辞、16式機動戦闘車(MCV)や03式中距離地对空誘導弾(中SAM)等の走行展示、対戦車ヘリコプター(AH-1S)等の飛行展示等を実施し、方面隊の威容を示した。総監は式辞において「全隊員は、要望事項である

### 方面隊とJAXA・国交省が対談 東方輸送隊長が自衛隊を説明



榎 太一氏(左)と輸送隊長(右から2人目)

方面隊は2月6日、都内においてJAXA(宇宙航空研究開発機構)が事務局を務める衛星地球観測コンソーシアムからの依頼による対談に協力した。

対談にはキャスターの榎太一氏、国交省・JAXAの専門家、方面隊から東部方面輸送隊長大崎1佐が参加した。大崎1佐は目進月歩で進歩している衛星地球観測に対し、自身の災害派遣の体験談を交えながら自衛隊としてのニーズを分かりやすく説明し、対談は大いに盛り上がりを見せた。

対談の様子については後日YouTubeで公開される予定である。

方面隊は2月6日、都内においてJAXA(宇宙航空研究開発機構)が事務局を務める衛星地球観測コンソーシアムからの依頼による対談に協力した。



式辞を述べる総監



観閲台の前を威風堂々と進むMCV

「克己」を胸に向上心をもって各人の戦闘能力を磨くとともに、温かい心をもって次の時代を担う後輩を育て、如何なる事態に対しても即応して任務を完遂し得るよう執念をもって挑戦し続けることを要望する」と述べた。

続いて隊員食堂において東部防衛協会、東部方面懇話会及び東部方面隊東校会が主催する祝賀会食が実施された。多数の招待者等が参加し、約1時間の懇談により交流を深め、会は盛況裏に終了した。

「克己」を胸に向上心をもって各人の戦闘能力を磨くとともに、温かい心をもって次の時代を担う後輩を育て、如何なる事態に対しても即応して任務を完遂し得るよう執念をもって挑戦し続けることを要望する」と述べた。

続いて隊員食堂において東部防衛協会、東部方面懇話会及び東部方面隊東校会が主催する祝賀会食が実施された。多数の招待者等が参加し、約1時間の懇談により交流を深め、会は盛況裏に終了した。

### 東部方面音楽まつり 3個音楽隊・4個太鼓隊が集結



司会の宮本 佳那子さんと1音の歌姫 綾 3 曹



迫力の演奏を披露する東方音



笑顔と歌で魅了する12音 藤嶽 3 曹



澄んだ歌声で魅了する合唱団との共演



轟音を響かせる東方自衛太鼓



若さ溢れる和光高校吹奏楽部との共演

方面隊は2月11日、和光市民文化センターサンアセリアにおいて令和4年度東部方面音楽まつりを実施した。演奏には東部方面音楽隊、第1音楽隊、第12音楽隊、東部方面自衛太鼓(朝霞振武太鼓)、松本アルプス太鼓、北富士天王太鼓及び滝ヶ原雲海太鼓)が参加した。

今回は「あつまれ! ヒーローの泉」をテーマとして、さまざまな「英雄(ヒーロー)」にまつわる選曲をもとに、各音楽隊による「NHK大河ドラマ『ドレ』や、東部方面自衛太鼓による「英雄」が演奏された。また和光市出身の声優 宮本佳那子さんの司会のもと、和光市ゆかりの合唱団であるうずら児童合唱団とみどりのそよ風児童合唱団との共演による「清水かつらの世界」や、和光高校吹奏楽部との合同による「英雄は我が傍ら」も演奏され、地域との絆をより一層深めた。

当日は2回の公演が行われ、合計約2000人の来場者が演奏を楽しんだ。来場者からは「児童合唱団の歌声に涙が出た。心が洗われる思いだった」「高校生たちの若さ溢れる演奏に力もらった」「太鼓が非常に迫力があって」等の声が聞かれた。

# 方面最先任上級曹長等会

## 「理想の最先任」を目指す

方面隊は1月18日・19日、朝霞駐屯地に方面最先任上級曹長等会を実施した。本会同は総監企図の徹底を図り、方面施策説明、各部隊からの情報提供及び最先任系統の討議により情報を共有するとともに、今後の業務の資を得ることを目的とし、方面隊下各部隊から最先任上級曹長等が参加した。



施策を説明する方面最先任



討議内容を発表する参加者

会同では総監訓話、方面施策説明、各部隊情報提供、グループ討議及び意見交換が実施された。訓話において総監は皆が実施すべきことは2つあり、1点目は「上意下達、下意上達」である。部下に意思を伝えることは「熱伝導」と同じで、指揮官がどんなに熱意を持って部下に意思を伝えようとしても、その間にいる隊員が同じように熱をもって伝えないと、末端に届くころには冷めた内容となり、十分に指揮官意図が伝わらない。指揮官を補佐するため熱意をもった指導をして欲しい。また自分の部下が困っていないかについてもよく掌握し、指揮官に伝えて欲しい。2点目は後輩の人材育成である。部下に関心を持ち、良好な人間関係を築きながら一歩踏み込んだ指導により、自分たちの後輩を自分たちの手で育てて欲しい。以上2点を重視しつつ、自分の理想とする最先任

方面隊は2月2日及び3日、パシフィコ横浜で実施された震災対策技術展を研修した。本技術展は地震・津波・水害・土砂災害等の各種災害への適切な対策、先進技術に関する関係機関の展示・提案を目的として実施され、各自治体、自衛隊(東部方面混成団及び神奈川地方協力本部)、消防、警察、生活インフラ企業、防災関連の各企業が参加した。各参加団体は各種システム(指揮所モニターシステム、情報収集システム、災害解析システム、火山観測システム)、耐震・制震・免震技術製品、非常食、発電機、シミュレーション、各種ハザードマップ

等を出展した。総監部からは幕僚長以下計19人が参加し、防災関連企業が提案する各種災害に対応するシステム等や、情報を集約・共有できる指揮所モニターシステムの有用性を確認し、大規模震災時における対応の実効性向上を図った。参加した隊員は「災害時に機能する分散型ネットワークや全国に拡大する被災対策支援システム、遠隔地からの災害現場の目視確認システムなど、災害対策に関する最新技術を研修することができ、大変参考になった。今後の災害対処の資」と語った。

方面隊は1月19日、朝霞駐屯地において防衛省性職員の活躍及びワークライフバランスの二層の推進を図るとともに、隊員との意見交換等により「男性の育児参加促進」、「部隊等における勤務時間管理」、「部隊等における業務の効率化」等をテーマとした意見交換会を実施した。意見交換会は自衛官管理職、自衛官尉官以下、事務官等、女性職員の4グループでそれぞれの立場から活発な意見が出され、今後のワークライフバランス推進の資とすることができた。

午前中は防衛省人事教育局等の職員が、女性職員活躍推進事業の修繕対象となる女性用トイレや、女性自衛官教育隊の生活隊舎を見学し、各施設の現況を把握した。午後は「男性の育児参加促進」、「部隊等における勤務時間管理」、「部隊等における業務の効率化」等をテーマとした意見交換会を実施した。意見交換会は自衛官管理職、自衛官尉官以下、事務官等、女性職員の4グループでそれぞれの立場から活発な意見が出され、今後のワークライフバランス推進の資とすることができた。

報告が行われた。参加した練馬駐屯地業務隊先任上級曹長 喜連川准尉は「大変有意義な会同だった。特に総監との懇談により、我々最先任上級曹長等に求められる能力・期待度の大きさを強く感じた。上官、部下の

もへ積極的に現場進出し、声を聴き、相談・指導する事の重要性を認識した。『指揮官の分身』となるよう自らの資質を向上させていきたい」と語った。

く感じた。上官、部下の報告が行われた。参加した練馬駐屯地業務隊先任上級曹長 喜連川准尉は「大変有意義な会同だった。特に総監との懇談により、我々最先任上級曹長等に求められる能力・期待度の大きさを強く感じた。上官、部下の

# 震災対策技術展

## 大規模震災に対応する先進技術を研修



最新の装置の説明を受ける総監部幕僚長

方面隊は1月20日、都内において東部方面隊東校会主催の防衛講話に協力し、方面隊への信頼感の醸成及び自衛隊の活動に関する理解の深化を図るとともに、防衛思想の普及啓蒙を促進した。総監はわが国を取り巻く安全保障環境、昨年12月16日に発表された戦略3文書の概要、将来の陸上防衛力等について講話をし、東校会及びオピニ

方面隊は1月19日、朝霞駐屯地において防衛省性職員の活躍及びワークライフバランスの二層の推進を図るとともに、隊員との意見交換等により「男性の育児参加促進」、「部隊等における勤務時間管理」、「部隊等における業務の効率化」等をテーマとした意見交換会を実施した。意見交換会は自衛官管理職、自衛官尉官以下、事務官等、女性職員の4グループでそれぞれの立場から活発な意見が出され、今後のワークライフバランス推進の資とすることができた。



意見交換の様子

方面隊は1月20日、都内において東部方面隊東校会主催の防衛講話に協力し、方面隊への信頼感の醸成及び自衛隊の活動に関する理解の深化を図るとともに、防衛思想の普及啓蒙を促進した。総監はわが国を取り巻く安全保障環境、昨年12月16日に発表された戦略3文書の概要、将来の陸上防衛力等について講話をし、東校会及びオピニ

# 総監部年始行事・航空隊年始飛行



だるまに目入れをする総監

# 任務完遂・航空安全を祈願



年初飛行の様子

総監部は1月10日、年始行事として慰霊碑参拝及びだるま入瞳式を実施した。慰霊碑参拝では祀られている御霊に対し今年1年の無事を祈願し献花した。続いて祈願だるまへの目入れを実施して東部方面隊の任務完遂を祈願した。また17日、総監は関東上空において東部方面航空隊の年始編隊飛行訓練を視察し、編隊飛行能力及び団結力を確認するとともに本年の航空安全を祈願した。 関連⑥面

# 戦略3文書の理解を深める 東校会・オピニオンリーダー防衛講話



総監講話を熱心に聴講する参加者

方面隊は1月20日、都内において東部方面隊東校会主催の防衛講話に協力し、方面隊への信頼感の醸成及び自衛隊の活動に関する理解の深化を図るとともに、防衛思想の普及啓蒙を促進した。総監はわが国を取り巻く安全保障環境、昨年12月16日に発表された戦略3文書の概要、将来の陸上防衛力等について講話をし、東校会及びオピニ

# 第1師団

## 「任務を完遂できる態勢」を速やかに確立

### 令和5年度第1師団隊務運営計画第1次指示

師団は12月20日、練馬駐屯地において令和5年度第1師団隊務運営計画第1次指示を示達し、師団隷下部隊に対して師団の隊務運営に関し指針を示した。

師団長は「第1師団はこれまで様々な任務を完遂してきたが、引き続き改訂がなされ、防衛力を

『全ては任務が基準』として隊務を運営する。今や我が国を取り巻く情勢は、これまでとは次元の異なるレベルで不確実性・複雑性を増大させている。我が国においても、現在の安全保障環境を踏まえ、今般、戦略3文書の改訂がなされ、防衛力を抜本的に強化していくこととされた。同時に、強化に必要な予算規模も、これまでにはない高い水準が確保された。今後、これまで我々が求めても保たず、実現できなかった装備・施設、訓練環境等が整っていくこととなる。一方で、防衛力強化のための資源や経費は、湧き出るものではなく、国民の自衛隊に対する更なる信頼と期待を込めて、捻出されたものである。我々は、与えられた責任の重さをこれまで以上に自覚し、脇を締めて首都機能の維持という重大な任務を果たしていくかなければならない。このような

て首都機能の維持に必要な作戦遂行能力を急速に向上させることが必要である。隊員諸官においては、自衛隊創隊以来、最も情勢が緊迫していることを銘肝してもらいたい。隊員一人ひとりの緊迫感を保持しつつ、どんなに厳しい状況であって

も、持続力をもって任務を完遂することが、国家、国民、なにかんずく愛する家族を護ることに繋がること、また、首都機能の維持が国家存続の要であることを改めて認識し、気概と誇りを持って、日々の隊務に邁進してもらいたい」と訓示した。

第1特科隊は12月12日から16日までの間、北富士駐屯地、富士駐屯地及び東富士演習場において令和4年度師団観測者集合訓練を実施した。目標位置の決定、射撃の修正等の観測能力向上を目的として、指導者グループと観測者グループに分かれ、指導者能力及び練度の向上を図った。

第1師団司令部及び各隷下部隊では、久しぶりとなる年末行事を行い、隊員たちの明るい笑顔が見られた。令和4年は北海道矢野別演習場で行われた北海道訓練センター1訓練や中重砲訓練、国家的行事や災害派遣等、隊員たちにとっても忙しい日々を過ごしてきた。そんな隊員のために各部隊では趣向を凝らし、さまざまなイベントが行われ、1年間の労をねぎらった。

## 20人が新たな狙撃特技に合格 方面狙撃集合教育



室内から狙撃する隊員

第1普通科連隊は10月16日から12月12日までの間、東・北富士演習場、演習場近傍駐屯地において令和4年度方面狙撃集合教育を実施した。本教育は師団から13人、第12旅団からは7人の普通科隊員が参加し、特技「狙撃」に必要な知識及び技能の練度を向上させるとともに、その到達速度について特技検定により評価をした。その結果、全隊員が見事合格し、新たに方面管内で20人の狙撃手が誕生した。なお11月16日には総監が視察し、教育状況を確認するとともに、隊員を激励した。その際、主任指導官を務めた1普通連本部管理中隊 繁田1曹は、総監よりメダルを授与された。



総監からメダルを授与された繁田1曹

## 1特として最後の観測者教育 各種観測能力の向上を図る

第1特科隊は12月12日から16日までの間、北富士駐屯地、富士駐屯地及び東富士演習場において令和4年度師団観測者集合訓練を実施した。目標位置の決定、射撃の修正等の観測能力向上を目的として、指導者グループと観測者グループに分かれ、指導者能力及び練度の向上を図った。



射撃の観測をする隊員

## 歓喜に沸いた年末行事

第1師団司令部及び各隷下部隊では、久しぶりとなる年末行事を行い、隊員たちの明るい笑顔が見られた。令和4年は北海道矢野別演習場で行われた北海道訓練センター1訓練や中重砲訓練、国家的行事や災害派遣等、隊員たちにとっても忙しい日々を過ごしてきた。そんな隊員のために各部隊では趣向を凝らし、さまざまなイベントが行われ、1年間の労をねぎらった。



今年の一文字で盛り上がる34普連



家族イベントを楽しむ1通大

## 練馬駐屯地でサークル活動開始!

練馬駐屯地では部隊間の垣根を超えた交流を通じて融和団結を促進するとともに、さらなる業務の円滑化を図る目的で、全隊員を対象に既存のサークルから大幅に拡充した86コのサークルを立ち上げた。



サークル活動の初顔合わせ

1月10日、初顔合わせが実施され、師団長も「健康麻雀同好会」に加入する等、隊員との交流を図った。人気サークル第1位は、フットサル同好会であった。



隊計1次指示の様子



訓示する師団長

## 戦没者の冥福を祈念 硫黄島で日米合同慰霊



国旗を奉じる日米両国隊員

第34普通科連隊は12月10日、硫黄島協会及び米硫黄島協会(元米国退役軍人会)が共催する日米硫黄島戦没者合同慰霊追悼顕彰式に防衛省自衛隊を代表し、旗衛隊として参加した。

追悼顕彰式は硫黄島において散華された日米両国の英霊を慰霊・顕彰し、その冥福を祈念することを目的としている。硫黄島戦50周年である平成7年に第1回が開催されたから今回で23回目となる。当日は英霊に対



## アンサンブルで観客を魅了 第8回室内楽演奏会

第1音楽隊は12月14日、光が丘IMAホール(練馬区)において各個演奏技能及び小編成演奏能力の向上を図ることを目的とし、第8回室内楽演奏会を実施した。室内楽とは小編成で



演奏の様子

の重奏であり、本演奏会は10組による演奏が行われた。パートごとに分かれた演奏や、小編成の重奏に会場に集まった大勢の観客は大きな拍手を送った。



サークル活動の初顔合わせ

1月10日、初顔合わせが実施され、師団長も「健康麻雀同好会」に加入する等、隊員との交流を図った。人気サークル第1位は、フットサル同好会であった。

# 第12旅団

## 令和5年 始動

### 各部隊趣向を凝らした訓練始め



令和5年を迎え、旅団隷下各部隊は、決意も新たに訓練始め等を実施し、新年をスタートさせた。各部隊の訓練始めに先立ち、旅団長は年頭の辞において昨年度の活動に

写真上段：浅間山を背に年初飛行を実施する第12ヘリコプター隊のUH-60及びCH-47  
 写真下段左から：綱引きをする第12偵察隊  
 安全祈願をする第12特科隊  
 ハイポートをする第12対戦車中隊  
 大縄跳びをする第13普通科連隊



だるまに目入れをする旅団長

触れその労をねぎらうとともに「旅団は『任務の完遂』を第一義とし、あらゆる任務に即動・持続・完遂する即応性の高い強靱な部隊を育成していく」とも、やりがいと充

実感をもって職務にまい進できる隊員の育成を図っていく。これを全うするためには、旅団所属全隊員諸官が、思いを一つにし、強い使命感・責任感をもって、それぞれの任務を全うすべく努力し続けなければならない。本職は、その先頭に立ち、諸官と共に行動し、執念を持って目標達成にまい進する所存である」と決意を述べた。

12日には第12ヘリコプター隊による年初編隊飛行訓練が実施され、旅団長も搭乗して群馬県内の上空を約1時間かけて飛行し、訓練の安全を祈願するとともに、その雄姿を示した。

そのほか跳ねる「卯」にちなんで第13普通科連隊及び第12後方支援隊は大縄跳びを、また改編を控えた第12偵察隊は団結をさらに強化するため綱引きを実施した。さらには第12特科隊は恒例の安全祈願を、第12対戦車中隊はハイポートを実施するなど、各部隊がそれぞれ趣向を凝らした訓練始め等を実施した。

旅団は令和5年度も旅団長を核心として任務にまい進する。



運搬作業を実施する第30普通科連隊の隊員

### 高病原性鳥インフルエンザに迅速対応 県と連携して24時間態勢で活動

新潟県村上市に所在する養鶏場（130万羽）において高病原性鳥インフルエンザが発生したとして第30普通科連隊長は、1月6日午前8時、新潟県知事からの鶏の殺処分等の支援に係る災害派遣を要請され、これを受理した。

30普通科連は24時間態勢で活動を実施し、約43万羽の殺処分等を実施した。

### 滞留車両の被災者を救出

#### 除雪支援や食料・水の配布などに貢献

旅団は12月20日から22日までの間、令和4年12月17日からの大雪に係る災害派遣を実施した。17日から降り続いた大雪により新潟県の国道8号線及び国道17号線の一部区間において、多数の車両が滞留した。滞留車

両の解消及びドライバー等の安全確保が必要となることから、20日午前5時10分、第30普通科連隊長は新潟県知事から災害派遣要請を受け、旅団は8号線（柏崎市）へ第2普通科連隊及び第5施設群、8号線及び17号線（長岡

市・小千谷市等）に2普通科連及び第30普通科連隊を派遣した。派遣部隊はそれぞれ除雪支援、滞留車両の救出、食料・水の配布、燃料補給などを実施した。

本災害派遣に従事し、任務を完了した各部隊は、豪雪地帯に所在する部隊として、今後も雪害に対する警戒は緩めない。

### 東富士で有終の美を飾る 最後の実弾射撃訓練



射撃訓練の最後に行われたFH-70X 9門による同時弾着射撃

第12特科隊は12月2日から10日までの間、東富士演習場において令和4年度第4回隊野営訓練を実施し、方面特科連隊の新編を控え、12特として最後の実弾射撃訓練に臨んだ。

本訓練は実弾射撃の練度を維持・向上させる目的で射撃を、また特科大隊としての行動を演練



第12特科隊として最後の実弾射撃

し、改編後の戦力化を促進する目的で実射練成訓練及び大隊陣地占領訓練を実施した。訓練は当初、大隊陣地占領訓練が実施され、演



MCVに部隊名を書き込む第12偵察隊長

12特はこれまで培った練成成果を次なる部隊に継承し、さらに精強な部隊を目指す。

### 新装備品に魂を込める

#### 部隊改編に向け気持ちも新たに

第12偵察隊は1月13日、相馬原駐屯地において新たに装備された

16式機動戦闘車（MCV）の入魂式を実施し、部隊の団結及び士

気の高揚を図った。本行事は隊員の使命感を振作し、MCVを活用した訓練における訓練事故の絶無を祈願して安全意識を徹底するとともに、乗員が人車一体となるための愛

車心の基礎を育成する目的で実施された。

行事は安全祈願の後、隊長自らがMCVに部隊名を書き入れ新装備品に魂を込めるとともに、部隊の団結及び士気を高揚させた。

12偵は年度末に第12偵察戦術大隊へ改編を予定しており、MCVは主要装備品の一つとして運用される。

第1施設団

# 災害対処能力向上に貢献 ジブチ国防軍に対する災害対処能力強化支援

施設団は11月26日から1月4日までの間、第4施設群副群長伊藤2佐を派遣団長とし団隷下部隊員9人をジブチ共和国国防軍に対する災害対処能力強化支援に派遣した。

本事業は同国防軍工兵に対して、油圧ショベル等の施設機械操作及び整備に関する災害対処能力強化を教育することにより、同国の災害対処能力の強化及び信頼感の醸成に寄与することができた。

この間、派遣団長以下3人は在ジブチ共和国特命全権大使大塚氏を表彰し、教育の進捗状況等について報告後、近隣の学校で現地の子どもたちと「座間の大風」をあげるなどの文化交流を実施した。



操作教育(バケット走行)



整備教育(C整備)



特命全権大使を表敬

【派遣隊員紹介】

- 第4施設群副群長 2佐 伊藤 康人
- 第4施設群 2尉 冨倉 勇
- 1曹 青島 理嗣
- 1曹 小原 英輝
- 2曹 千葉 周一
- 2曹 石森 猛
- 2曹 豊泉 文崇
- 3曹 木村 竜太
- 3曹 平山 水二郎
- 第5施設群



## 令和4年度団戦技競技会 戦技は平時における実戦の場

施設団は12月13日から16日までの間、古河駐屯地及び宇都宮射場において令和4年度団戦技競技会を実施した。

本競技会は射撃、持続走及び銃剣道の3競技を実施し、新型コロナウイルス感染症対策を万全にして競技会を開催した。

13日は宇都宮射場で射撃(弾倉交換及び姿勢変換)が行われ、隊員は日ごろの練成成果を十分発揮し競技に臨んだ。

15日は持続走(駅伝の部)が行われ30キロメートル5区間(1キロ区間6キロメートル)で競った。参加者は団長の号砲を合図に一斉に飛び出し、素晴らしい走りを見せた。

16日は銃剣道(団体戦・個人戦)が行われた。隊員は各部隊の名譽をかけた、気迫溢れる試合を行った。



射撃競技



持続走競技



銃剣道競技

イルス感染症対策を万全にして競技会を開催した。13日は宇都宮射場で射撃(弾倉交換及び姿勢変換)が行われ、隊員は日ごろの練成成果を十分発揮し競技に臨んだ。

15日は持続走(駅伝の部)が行われ30キロメートル5区間(1キロ区間6キロメートル)で競った。参加者は団長の号砲を合図に一斉に飛び出し、素晴らしい走りを見せた。

16日は銃剣道(団体戦・個人戦)が行われた。隊員は各部隊の名譽をかけた、気迫溢れる試合を行った。

【射撃(部隊対抗)】	Aグループ 第5施設群
Bグループ 第307施設隊	
【持続走(部隊対抗)】	Aグループ 第4施設群
Bグループ 第307施設隊	
【銃剣道(団体戦)】	Aグループ 第5施設群
Bグループ 団本部部隊	
【銃剣道(個人戦)】	幹部の部 4施設群 門倉3尉
陸曹の部 団本付 青木2曹	
陸士の部 6施設 室田士長	
新隊員の部 器材隊 大木1士	
女性自衛官 4施設 佐藤士長	

関東補給処

## 二十歳を迎える隊員集う 新たな節目に抱負表明



答辞を述べる北原3曹



記念品を贈呈する駐屯地司令

霞ヶ浦駐屯地は1月20日、「二十歳の集い」を挙行し、新たな節目を迎える隊員の門出を祝した。成人式は、令和4年4月2日から令和5年4月1日までの間に二十歳を迎える隊員を対象に実施された。

また今回は新型コロナウイルス感染症拡大以前の規模で行われ、二十歳隊員の家族はもとより、隊員の家族はもとより、土浦市長、後援会、協力会等多数の来賓が臨席した。式典は厳かな雰囲気の中で開始され、多数の来賓等が見守る中、二十歳

## 年初め 任務完遂へ誓い 祈願だるまに思い込め



だるまに目入れをする処長 各部長等は1月10日、霞ヶ浦駐屯地において祈願だるまの目入れ行事を行った。副処長以下部長等は新年の抱負を表明したのち、書き入れを実施。最後に処長、副処長、各部長等は1月10日、霞ヶ浦駐屯地において祈願だるまの目入れ行事を行った。副処長以下部長等は新年の抱負を表明したのち、書き入れを実施。最後に

長が「令和5年、隊員の健康及び安全を祈願する」と述べて書き入れを行い、だるまの片目を開眼させた。関東補給処は陸上自衛隊の兵站の要であるとの自覚を持ち、令和5年も処員一丸となり引き続き任務にまい進していく。

## 小野田政務官が来処 処の運用状況を視察

関東補給処は1月17日、霞ヶ浦駐屯地及び朝日分屯地において小野田防衛大臣政務官による視察を受けた。

小野田政務官は処長以下部長等の出迎後、本部庁舎内会議室で状況報告を受けたのち、視察を開始した。

本視察において小野田政務官は、火器車両部及び航空部の補給倉庫、格納庫、また用賀支処が有する移動式医療システム(Mシステム)及び朝日

燃料支処のドラム缶整備風景等も含めた設備・器材の現況、運用状況を確認した。最後に処長と記念メダルの交換が行われた。

関東補給処は本視察を受けて得た知見を納庫、また用賀支処が有する移動式医療システム(Mシステム)及び朝日



補給品の梱包状態を視察する小野田政務官(右)

関東補給処は4年11月、公益財団法人日本水難救済会から感謝状及び事業功労有功盾を、また日本赤十字社より金色有功章を贈呈された。水難救済会には年間を通じて「青い羽根募金活動」を行っており、平成30年度から令和4年度までの募金額が表彰基準に達した。また日本赤十字社が実施している献血においては、令和3年度までの累計協力年数が45年、献血人数が2万619人にとり、それぞれ功績を表彰されたものである。なお贈呈品は、本部庁舎1階のショーケース内に展示している。

Twitter フォロワー募集中!!

陸上自衛隊霞ヶ浦駐屯地公式  
Camp Kasumigaura

### 航空隊

## 航空隊一丸となり 年始編隊飛行訓練完遂

東部方面航空隊は1月17日、立川駐屯地及び周辺空域において、総監視頭に当たり、編隊飛行訓練を実施し、編隊行動能力を向上させた。



富士山をバックに飛行するAH-1S



訓練開始式で訓示を述べる航空隊長

力の向上、航空隊の団結強化及び士気高揚を図る目的で行われた。訓練に

先立つ訓練開始式において、航空隊長は国内外情勢、国土・国民を守る責及び強靱な航空隊の創造について述べた後「搭乗員はもとより、これを支える航空隊全隊員が一丸となって本訓練を安全確実に完遂しよう」と隊員を鼓舞した。その後、

東部方面ヘリコプター隊長をはじめ参加操縦士は航空隊長に搭乗報告を行い、気持ちを新たに訓練に臨んだ。訓練には方面ヘリコプター隊からUH-1Jが1機、第4対戦車ヘリコプター隊からOH-1が1機及びAH-1Sが3

機の合計5機が参加し、航空隊長を先頭として相模原(小田原)平塚(鎌倉)横浜上空を飛行した。訓練の最後に視察機搭乗の総監から訓示があり、令和5年の任務完遂及び航空安全の決意を新たに示した。

### CTS

## 部隊の練度向上に最大限寄与 富士教導団指揮所訓練を支援

東部方面指揮所訓練支援隊(CTS)は12月12日から16日までの間、富士教導団が実施した令和

4年度第2回諸職種協同指揮所訓練を支援した。本訓練は諸職種協同の要演練項目を「最終態勢

に至る一貫性を保持した指揮幕僚活動」「勝ち目を追求する戦い方の創造(戦闘力の組織化)及び「適時性ある主動的な戦闘指導(実効的な業務フロー)」とし、増強普通

隊は本訓練の支援に当たり、富士教導団等と訓練実施要領等について綿密な調整を実施するとともに、新型コロナウイルス感染症防止対策として、全ての訓練参加隊員の体温測定・室内の常時換気、消毒等の徹底を図った。訓練間においては、統

裁部・訓練部隊と密接に連携し、ICEシステム(指揮所訓練統裁支援システム)の操作実習、入力統制、研究会資料の収集・提供等を実施し、訓練部隊の指揮幕僚活動に係る能力の向上に寄与した。

### 後支隊

## 整備技術を修得

## 「施設機械整備」教育開始



工具の使用法を学ぶ新隊員



中型ドーザの整備要領を学ぶ新隊員

東部方面後方支援隊は1月10日から勝田駐屯地において、令和4年度陸士特技課程「施設機械整備」教育を開始した。本教育は施設教育直接支援中隊が担任し、東方後支隊の他、第1後方支

援隊第12後方支援隊、関東補給処古河支処及び中央即応連隊の計16人が参加している。1月12日の教育開始式において、教育担任官の施設教育直接支援中隊長古田1尉は「自主積極的

教育に参加している東部方面後方支援隊第102施設直接支援大隊 高橋1士は「部隊に貢献できるように、特技修得に向けて精一杯頑張りたいです」と前向きな気持ちを表した。



操作入力をする隊員



訓練終了後の研究会

隊は引き続き、訓練部隊のニーズに最大限に応えつつ、訓練支援の質的向上を図り強靱な東部方面隊の創造に最大限寄与する。

### 混成団

## 新隊員前期教育修了 それぞれの職種部隊へ



式辞を述べる大隊長



卒業式の様子

第117教育大隊は12月15日、武山駐屯地において第19期一般陸曹候補生課程(前期)及び第20期自衛官候補生課程の卒業式を挙行了。この2年間はコロナ禍により招待を控えていたが、今回は3年ぶりに来賓、各部隊長及び隊員家族が参加し、新隊員の成長した姿を見守った。

大隊長 森田2佐は、約3カ月間にわたり自衛官としての基礎となる教育訓練を同期一丸となって乗り越えた新隊員たちの、たくましく成長した姿と積み重ねた日々の努力をたたえ、ともに

「ここで築いた『同期の絆』はかけがえのない財産でありこれからも大切にしていってほしい」と式辞を述べ、新隊員の門出を祝した。新隊員の代表として指揮者を務めた鈴木2士は答辞において「上司に対する感謝の気持ちと、常に自らを励まし立派な自衛官になれるよう、さらに精進を重ねることにより皆様の期待に応えたい」と決意を述べた。

新隊員は12月17日付で、方面内の各職種部隊で実施される後期教育の地へ、同期との思い出を胸に旅立った。

# 栃木地本 地元出身者が自衛隊を説明 インターンシップ宇都宮に出展

自衛隊栃木地方協力本部は12月11日、栃木県宇都宮産業展示館で開催されたマイナビインターンシップ宇都宮において、自衛隊ブースを出展した。本イベントは大学生等を対象とした職業理解を



参加者に説明する藤田空士長

## ある！ある！自衛隊

byともえ

定年しても買おう車はODD色なんですか  
落ち着いんよ、この色は……

# 長野地本 自衛隊OBが就職講話 松本で退職予定者教育

自衛隊長野地方協力本部は12月19日、松本駐屯地において第2回定年退職予定者2年前教育及びOB就職講話を実施した。

本教育は退職2年前の定年退職予定者員に対し、人生設計の再考を促して再就職に対する意識改革を図るとともに、OBによる就職講話を実施し、退職準備及び再就職の実情を理解させて不安解消を図ることを目的としている。今回、松本駐屯地所属隊員及び長野県



OBによる職業講話

紹介すると参加者は打ち解けた雰囲気、説明に耳を傾けていた。また栃木地本が東北で計画しているインターンシップについても案内した。

スライド説明後には同県出身の藤田空士長が、女性隊員という立場で働きやすい環境だと感じ

性からの質問に応じた。自衛隊を選んだ理由や営内生活、体力的な問題等、女性も働きやすい職場であることを紹介した。

参加者からは「自衛隊を知る事ができる良い機会だった」「定年まで働きやすい環境だと感じ

た」等の感想が聞かれた。また「次のインターンシップでは、東日本大震災での自衛隊の活動内容を現地で紹介してもらえたらいいかな」と、関心を示す参加者の姿も見られた。

# 群馬地本 入隊意欲向上を目的に 合格者説明会を行う

自衛隊群馬地方協力本部前橋募集案内所は12月17日・18日の両日、前橋市営施設を利用して陸・海・空自衛隊合格者説明会を実施した。

本説明会は入隊案内が配布される前から入隊に必要な準備を進めてもらうことを目的に、男女別日程で教育隊の概説・若年隊員との懇談・自衛隊家族会紹介の3部構成で毎年実施しているものであり、採用試験合格者及びその家族の計37人が参加した。

当日は前橋所長による合格の祝辞から始まり、教育隊の概説では、着隊までの注意事項や入隊から部隊配属の流れに焦点を合わせた説明を実施した。若年隊員との懇談では、近傍部隊から隊員を



教育風景動画を視聴する参加者

## 訓練所感

東部方面システム通信群 第304中樞交換通信中隊 2等陸曹 大野 清史

「あづま」をご覧の皆さま、はじめまして。東部方面システム通信群第304中樞交換通信中隊(伊丹)から、現中隊に配属され、約6年ぶりに東部

令和4年8月の定期異動で中部方面システム通信群第303中樞交換通信中隊(伊丹)から、現中隊に配属され、約6年ぶりに東部

方面システム通信群で勤務することとなりました。私は昨年の11月10日から15日までの間、中樞中継班長として方面

隊訓練検閲に参加しました。茨城県内に中樞中継所を開設して、野外におけるシステム通信組織を構成・維持・運営する任務を付与され、朝霞、勝田、習志野、百里及び古河の5通信所との間にシステム通信を構成し、任務を完遂することができました。

またネットワークカメラを使用した展開地域の警備を実施して、録画機能及び追尾機能を活用した現場映像の記録、不審者の早期発見等についての機能を

隊訓練検閲に参加しました。茨城県内に中樞中継所を開設して、野外におけるシステム通信組織を構成・維持・運営する任務を付与され、朝霞、勝田、習志野、百里及び古河の5通信所との間にシステム通信を構成し、任務を完遂することができました。

またネットワークカメラを使用した展開地域の警備を実施して、録画機能及び追尾機能を活用した現場映像の記録、不審者の早期発見等についての機能を

# 方面隊訓練検閲に参加して

隊訓練検閲に参加しました。茨城県内に中樞中継所を開設して、野外におけるシステム通信組織を構成・維持・運営する任務を付与され、朝霞、勝田、習志野、百里及び古河の5通信所との間にシステム通信を構成し、任務を完遂することができました。

またネットワークカメラを使用した展開地域の警備を実施して、録画機能及び追尾機能を活用した現場映像の記録、不審者の早期発見等についての機能を

隊訓練検閲に参加しました。茨城県内に中樞中継所を開設して、野外におけるシステム通信組織を構成・維持・運営する任務を付与され、朝霞、勝田、習志野、百里及び古河の5通信所との間にシステム通信を構成し、任務を完遂することができました。

またネットワークカメラを使用した展開地域の警備を実施して、録画機能及び追尾機能を活用した現場映像の記録、不審者の早期発見等についての機能を

## 隊員自主募集ご協力をお願い 令和5年度自衛官採用案内

種目	資格	受付期間	試験期日
幹部候補生	大卒程度 20歳以上26歳未満	①3月1日～4月14日 ②3月1日～6月15日 (飛行要員除く。)	①1次:4月22日・23日 2次:5月26日～6月1日 [海・空飛行要員のみ] 3次(備):6月22日～26日 (空):7月15日～8月3日
	院卒者 20歳以上28歳未満 (修士課程修了者等)		①1次:6月24日 2次:8月1日～7日
	歯科 薬剤科 専門の大卒(見込含む) 20歳以上30歳未満 (薬剤は20歳以上28歳未満)		①1次:4月22日 2次:5月26日～6月1日 ②1次:6月24日 2次:8月1日～7日
一般曹候補生	18歳以上33歳未満	3月1日～5月9日	1次:5月19日～28日 2次:6月17日～7月2日 ※いずれか1日を指定されます。

隊員自主募集による表彰

賞別	表彰条件	授与記念章
第3級	①前年度で5名入隊、②2年連続4名入隊、③3年連続3名入隊、④累計で15名入隊	
第4級	①前年度で3名入隊、②2年連続2名入隊、③累計で10名入隊	
第5級	前年度で1名入隊	

自衛官募集ホームページ: 自衛官募集Twitter:

成長 舞台 陸海空自衛官 13歳～32歳 できる

# 新任 上級曹長

## 「相互信頼の礎」 第12化学防護隊 畠山 勤雄 准陸尉



「あづま」をご愛読の皆様こんにちは。令和4年3月から第12化学防護隊先任上級曹長に上番している畠山准尉です。出身は静岡県「74式戦車に乗りたい」との夢と希望を胸に平成元年3月に入隊し、念願叶って第12戦車大隊に配属されました。

だが、待っていたものは61式戦車(泣)、その後、平成13年3月の第12戦車大隊の廃止まで勤務し、戦車教導隊、第12化学防護隊、第13特殊武器防護隊等での勤務を経て現在に至ります。

私が所属する第12化学防護隊は旅団唯一の化学科部隊であり、今年で創隊10年を迎えるまだ若い部隊です。部隊は旅団隊区内のCBRN対処を主たる任務としており、これまで御岳山噴火に伴う災害派遣における火山防護、豚熱、鳥インフルエンザ発生時の防疫活動、大規模震災等において給水や防疫等の民生支援を実施してきました。

このような部隊で、私自身が曹士隊員に指導していることは「常識で考える」ことです。常識と言っても、育った環境や時代によってさまざまな年齢に問わず共通して教えられるべき常識の一つに「あいさつ」があります。自衛官は職務上の指揮監督者や上位者に対して敬礼を行うことが「自衛隊の礼式に関する訓令」で定められていますが、昨今は敬礼が出来ない隊員が散見される悲しい現状があります。あくまで私見ですが、敬礼とは訓令で定めるほか自衛官が行うあいさつの一手段であるとも思っております。これは、自衛官としての常識だとも考えています。子どもの頃から教えられるべき常識です。

## 予備自衛官 山梨地方協力本部 野口 一郎 予備3等陸尉



私は昭和57年7月、第1教育団(現東部方面混成団)に入隊しました。その後、第1特科連隊(駒門)を皮切りに第6地対艦ミサイル連隊(宇都宮)、国際活動教育隊(駒門)を経て最終部隊である第1特科隊(北富士)での勤務を最後に、平成30年7月定年退職し、同年10月、予備自衛官に採用されました。予備自衛官として、本

分を補うため一つ一つの訓練にまじめに取り組む姿勢を見て、自分自身も負けては行かないと感じています。

私は現在、山梨県富士河口湖町に所在する株式会社ファミリーオートという自動車販売店に勤務をしています。ファミリーオートは「感謝の心で安心したクルマ生活を万全に支えます」を合言葉に新車・中古車・車検整備・保険等に関する全てに対応できる会社であり、地元の方々へ信頼され、地域に密着した歴史ある会社です。会社での主な業務は、仕入れ車両の商品化です。仕入れた車両の外装を磨き、内装のクリーニングを実施し、お客様に対してより良い車両をご提供ができます。

最後に私も予備自衛官に採用され訓練への参加を通じて、予備自衛官制度の重要性を深く理解することができました。今後も予備自衛官募集訓練に積極的に参加し、有事の際は自衛官として国の防衛、災害派遣等に国民のために貢献したいと思っています。

これから任期満了退職を考えている方や定年退職される方にも是非予備自衛官への志願を検討していただければと思います。

# 「一期一会」 関東補給処航空部 小林 花帆莉 陸士長

今月のフェアレディは、関東補給処航空部で航空機整備手をしている小林花帆莉(かほり)陸士長です。小林士長は東京都出身の20歳で、学生時代は陸道(たいてう・武道の一種)やバレーボールで汗を流していました。



Q1・自衛隊に入隊したきっかけは？  
東日本大震災の時に活躍している自衛隊員の姿をテレビで見ると憧れの気持ちを抱くと同時に人を助ける仕事が出来たいと思い入隊しました。

Q2・現在の職務は？  
作業長(陸曹)からの指示をいただきながら、航空機の整備をしています。主な作業内容は用途廃止航空機から再利用可能な部品を取り外して、その部品の点検や手入れをすることです。

Q3・休日の過ごし方は？  
学生時代はスポーツに励んでいたのが意外に思われるのですが、部屋でゆったり映画鑑賞をしたり、ニンテンドースイッチで遊ぶのが好きなインディアン派です。映画に関し

てはワールドスピードなど、アクション系が好きです。

Q4・今後の目標は？  
成人年齢は引き下げられましたが、あらためて成人したという事実をしっかりと感じ、責任ある行動を心がけていきたいと思っています。また今まで出会った、そしてこれから出会う人たちの縁、日々を大切にしながら、陸曹を目指して頑張ります。

若さあふれる小林士長の今後の活躍が楽しみです。

する第1特殊武器防護隊に配属となり、化学陸曹として勤務しております。

Q1・自衛隊に入隊したきっかけは？  
父が自衛官として現役で勤務しており、その仕事に対する姿勢に憧れを持ち、入隊しました。

Q2・化学科に配属される良かったこと？  
少数精鋭の職種であるため、一人一人が担う仕事の責任や量は多いですが、やり遂げた時に大きな達成感を感じます。

Q3・現在の職務は？  
化学陸曹として勤務しており、除染所の開設運営、除染車の操縦手として地域除染をするなど師



今月の東方男児は第1特殊武器防護隊の浅野3曹です。

浅野3曹は平成31年3月、武山駐屯地に教育入隊し、練馬駐屯地に所在

## 東方男児 「俺に続け、俺を見よ」 第1特殊武器防護隊 浅野 正成 3等陸曹

境や時代によってさまざまな年齢に問わず共通して教えられるべき常識の一つに「あいさつ」があります。自衛官は職務上の指揮監督者や上位者に対して敬礼を行うことが「自衛隊の礼式に関する訓令」で定められていますが、昨今は敬礼が出来ない隊員が散見される悲しい現状があります。あくまで私見ですが、敬礼とは訓令で定めるほか自衛官が行うあいさつの一手段であるとも思っております。これは、自衛官としての常識だとも考えています。子どもの頃から教えられるべき常識です。

部队的曹士を指導する立場として、今後も隊員一人一人に興味を持ち、社会人としての常識であるあいさつ、自衛官の常識である敬礼を自ら積極的に実施して部隊のますますの団結強化を図って行きたいと思っています。

いろいろな場所にツライリンクをすることもあります。

Q4・休日の過ごし方は？  
服や靴が好きなので買物やウィンドウショッピングをしています。また、最近バイクを購入し、円滑な隊務遂行に貢献できるように心がけています。

Q5・自分のアピールポイント？  
私のモットーは「率先きょう行」であり、他の誰よりもいち早く行動し、円滑な隊務遂行に貢献できるように心がけています。

Q6・今後の目標は？  
今後部隊を引っ張っていく後輩から慕われる陸曹になれるように、知識や技術を身に付け、心技体を充実させ日々精進していきます。

化学陸曹としての任務にまい進する浅野3曹の今後の活躍に期待しています。

信賴の維持と増進この言葉の意味を噛みしめる日々が続いている。

先日、方面隊は63周年記念行事と方面音楽まつりを挙行了。コロナ禍の影響もあって記念行事、音楽まつりともに4年ぶりの開催で「希薄化した部外との関係復元」が方面隊としての大きなテーマだった。久々のイベント開催ということもあって多くの苦勞もあったが、招待者や地域の住民の方々と言葉を交わす機会があり、多くの激励や感動の声を頂き、いかにわれわれが温かい目で見守られているかということを感じた。

連日、テレビやネットでは厳しい安全保障環境が報じられている。その中で、国民の自衛隊に対する期待は大きくなっており、自衛官一人一人の行動が注目されている。無事成功裏に終えた両行事を機に改めて標を直し、国民の期待に応えられるよう直面する様々な課題に取り組んでいかなければならない。

分を補うため一つ一つの訓練にまじめに取り組む姿勢を見て、自分自身も負けては行かないと感じています。

私は現在、山梨県富士河口湖町に所在する株式会社ファミリーオートという自動車販売店に勤務をしています。ファミリーオートは「感謝の心で安心したクルマ生活を万全に支えます」を合言葉に新車・中古車・車検整備・保険等に関する全てに対応できる会社であり、地元の方々へ信頼され、地域に密着した歴史ある会社です。会社での主な業務は、仕入れ車両の商品化です。仕入れた車両の外装を磨き、内装のクリーニングを実施し、お客様に対してより良い車両をご提供ができます。

最後に私も予備自衛官に採用され訓練への参加を通じて、予備自衛官制度の重要性を深く理解することができました。今後も予備自衛官募集訓練に積極的に参加し、有事の際は自衛官として国の防衛、災害派遣等に国民のために貢献したいと思っています。

これから任期満了退職を考えている方や定年退職される方にも是非予備自衛官への志願を検討していただければと思います。

### 編集後記

信賴の維持と増進この言葉の意味を噛みしめる日々が続いている。

先日、方面隊は63周年記念行事と方面音楽まつりを挙行了。コロナ禍の影響もあって記念行事、音楽まつりともに4年ぶりの開催で「希薄化した部外との関係復元」が方面隊としての大きなテーマだった。久々のイベント開催ということもあって多くの苦勞もあったが、招待者や地域の住民の方々と言葉を交わす機会があり、多くの激励や感動の声を頂き、いかにわれわれが温かい目で見守られているかということを感じた。

連日、テレビやネットでは厳しい安全保障環境が報じられている。その中で、国民の自衛隊に対する期待は大きくなっており、自衛官一人一人の行動が注目されている。無事成功裏に終えた両行事を機に改めて標を直し、国民の期待に応えられるよう直面する様々な課題に取り組んでいかなければならない。